

周辺散策

炬口地区

(1)炬口八幡神社

延喜 21 年(921)に石清水八幡宮の分霊を勧請したと伝わります。

歴代為政者に厚く信仰されてきました。安宅氏が奉納した、伝新田義貞甲冑は国の重要文化財です。



(2)秋葉神社・泰雲寺

秋葉神社は、安永 8 年(1779)頃に火伏せの神として建立されました。

泰雲寺は、享保 7 年(1722)に徳島藩家老稻田植政の妻知芳院が先代の菩提を弔うため、庵主となりました。



(3)炬口台場跡

文久 3 年(1863)、徳島藩筆頭家老稻田氏により築造されました。

海峡を守るものではなく、城下町防衛のために築かれました。当時の石垣が良く残っています。



宇山地区

(4)春陽荘

昭和 16 年(1941)、家相方位学の権威である建築家、山本豊圓に設計を依頼し、地元の大工棟梁斎藤三吉が建てさせた近代和風建築です。

莫大な財と労力をかけて築かれている、国の登録有形文化財です。



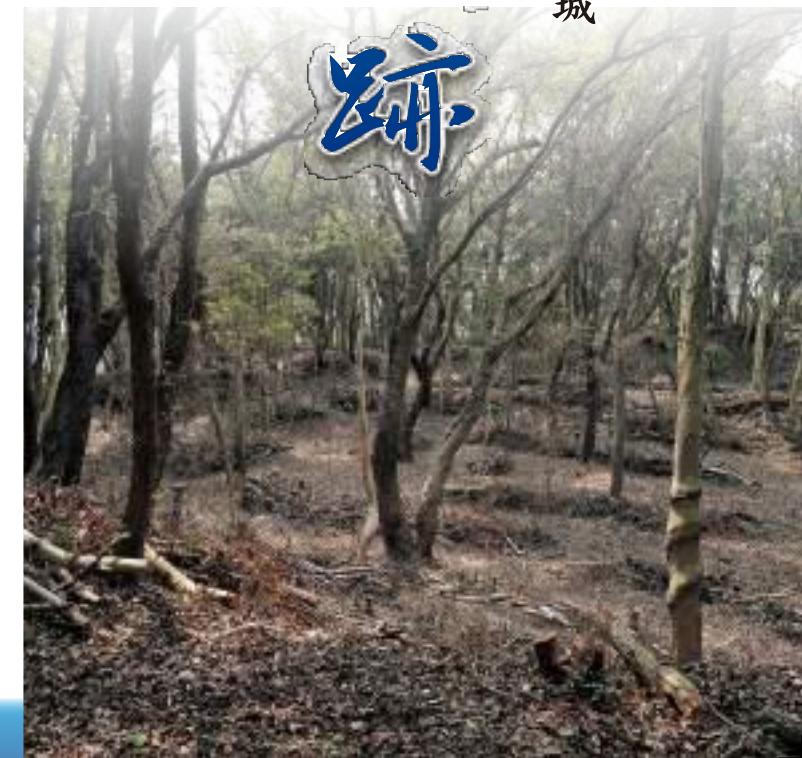
(5)名号石

弘法大師が巨岩に「南無阿弥陀仏」と名号を刻んだとされ、その名が付けられています。秋には周辺の楓が紅葉して、洲本の名所になっています。



作成：洲本市教育委員会
兵庫県洲本市本町三丁目 4 番10号 TEL 0799-22-3321(代)
作成年月：令和 2 年 (2020) 4 月

炬口城跡



炬口城跡

位置

戦国時代の山城である炬口城は、淡路島の中央東岸の大坂湾に面した標高約 96m の万歳山(別名:秋葉山)の山頂に位置しています。

炬口地区は、中世に石清水八幡宮の荘園炬口庄があった場所で、炬口八幡神社を中心にもちが形成されています。城のある万歳山は、その周囲を北から反時計回りに陀佛川が流れ、洲本川に合流しています。山頂部からは大阪湾が一望でき、古くから栄えた港を守る城としては最適の場所です。

戦国時代の淡路島

永正 16 年(1519)、淡路国守護細川氏が、阿波の三好氏に滅ぼされます。以後淡路島は、島内各地の国人が台頭する戦国時代に入ります。

淡路の国人の中で最大の勢力を誇ったのが、安宅(あたぎ)氏です。淡路水軍を率いた安宅氏は、淡路各地に城を構え、その主な城は「安宅八家衆」の城と呼ばれ、炬口城もその一つに数えられています。

天文 18 年(1549)、三好長慶は弟の冬康を安宅氏に入れ、淡路水軍を掌握、畿内進出の足掛かりを構築していきます。

安宅氏は、三好氏とともに畿内を転戦し、三好政権の一翼を担いますが、三好氏の衰退とともに安宅氏にも陰りが生じます。冬康の子信康は、元亀 3 年(1572)には信長に降伏、その後、淡路島周辺では織田と毛利の戦いである第一次・第二次木津川口の戦いなどが続き、戦国乱世に巻き込まれていきます。

京や堺に近い淡路島は、地理的に重要な場所で、国人衆は毛利や長宗我部など大名の調略を度々受け、毛利に組みする国人が出てきました。事態を重く見た織田信長は、天正 9 年(1581)、羽柴秀吉に淡路攻略を命じます。淡路の国人衆は悉く降伏し、翌 10 年に秀吉配下の仙石秀久が 5 万石で洲本城に入城、淡路島の戦国時代はここに幕を下ろすこととなります。



安宅八家衆の城

兵庫県指定史跡 炬口城跡

(1) 築城年代と城主

炬口城は、江戸時代の地誌によると永正年間(1504-20)の初め頃に築かれたとされています。国の重要文化財である先山千光寺の梵鐘には、永正 16 年に追刻銘されたものがあり、そこに炬口城主安宅秀興の名が確認できます。

また大永 8 年(1528)には、三好氏に反旗を翻した炬口城主安宅次郎三郎が墓浦城主墓浦常利と栗原城主島田遠江守に鎮圧されたと伝わります。その他、地誌には冬宗や甚太郎、市之助正行などの名が確認されますが、いずれも安宅姓であることから、安宅氏の居城であったと考えられています。



炬口城跡の立体地図

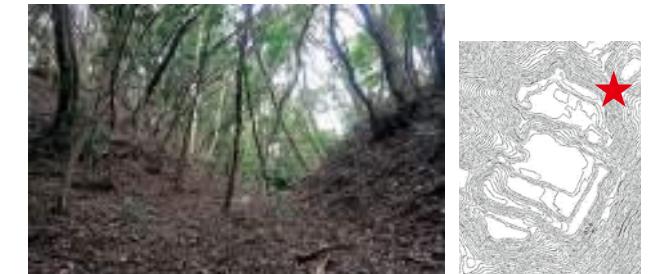
(2) 繩張り

江戸時代の地誌によると、城は本丸・二の丸・出丸からなります。方形区画の本丸は、南北約 50m、東西約 50m で、周囲に土塁を施しており、それが南北の堀切をより効果的にしています。本丸内は大きく 3 つに区画され、中央部分が両側に比べ 1 段低くなっています。東西 2 つの虎口は、この中央部分に繋がっています。また西側虎口の出口付近は比較的緩斜面になっており、それを補うように淡路島の城ではほとんど例がない畝状堅堀が施されています。また北側土塁の北西隅には、櫓台のようなものも確認されます。

二の丸は、本丸の北東に位置し、本丸と堀切により隔てられています。この堀切は、淡路島の山城の中でも最大の規模を誇ります。出丸は、本丸から北側へ 100m 程のところにあり、堀切が確認されます。



本丸南側の土塁



本丸北側の堀切

炬口城は、同時代の淡路島の城と比較すると、土塁やその曲輪の規模は、他の城を圧倒する存在です。淡路島の戦国時代から織豊期の築城技術の変遷を知るうえで極めて重要な城として、令和 2 年 3 月 13 日、兵庫県の史跡に指定されました。